

水防工法に使用するロープワーク

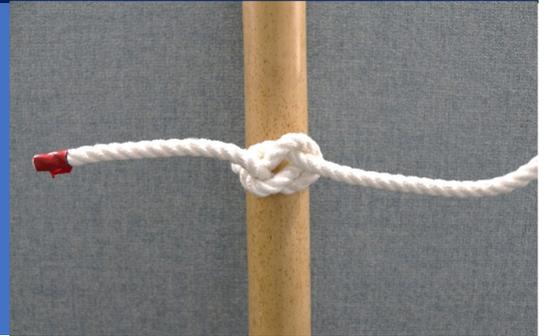
●Web サイトから、ロープの結び方の動画を見ることができます。是非ご活用ください。

いぼ結び



別名「垣根結び」「俵結び」、地方によっては「はえがしら」とも呼ばれています。木や竹などをしばり合わせるときや、荷物の梱包などの結びに使われます。

“確固しい”結びといわれ防災工法でも多く使われます。

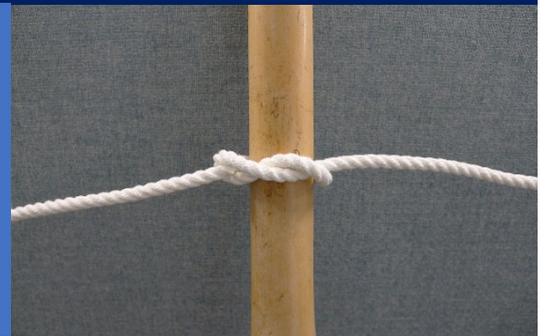


ふな結び



別名「ひと結び」とも呼ばれ、ロープの止め結びで、杭や立木、竹など、ロープの先端部の結びに使われます。

防災の最も基本となる結びで、元ロープに常に力がかかると固く結ばれ力がかからなくなると簡単にほどけます。

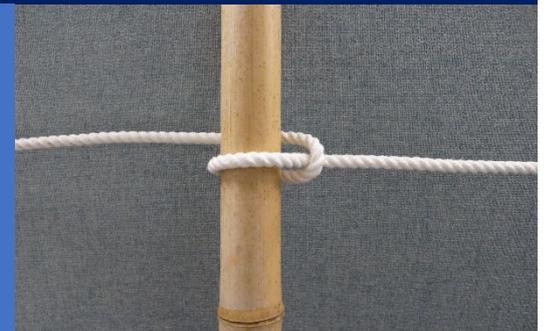


“の”の字結び



ひらがなの“の”の字に見えることからこう呼ばれています。

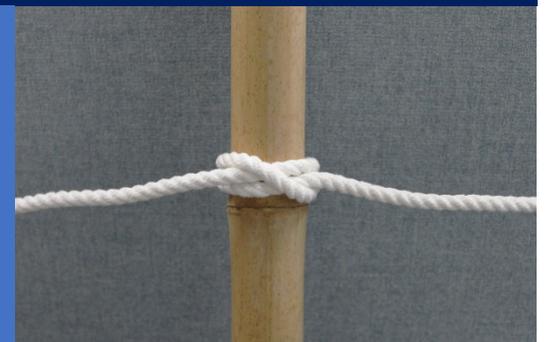
別名「交差結び」とも呼ばれ、ロープの交差部や骨組みの間隔を保つ結びに使われます。



かみくし



別名「巻き結び」「徳利(とっくり)結び」とも呼ばれ、物をたばねたり、両端に“力”がかかることや、立木、杭などに結びつけるのによく使われます。

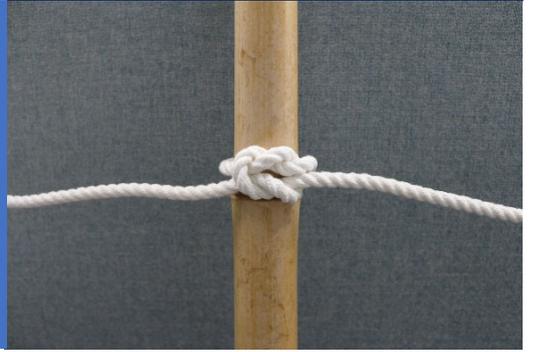


ほん結び



別名「帯結び」とも呼ばれ、物をしばるときの基本となる結びで、主に2本のロープをつないだりするときに使用する結び方です。

最初の結びの手順を誤ってロープの上下を反対にすると凶事の“縦結び”となり、結びも確実でないことから普段は絶対使わない結びです。注意しましょう。



もやい結び



舳う(もやう)とは、舟と舟をつなぎ合わせたり、杭などに舟をつなぎとめることです。

“結びの王様”ともいわれ、命綱を筆頭に幅広く使われます。

